男女共同参画社会をめざして

ジェンダーってなに？

3

豊　田　市

発刊にあたり

豊田市長　太田　稔彦

豊田市では「とよた男女共同参画プラン（クローバープラン）」に基づき、性別にかかわらず、一人の人間としてお互いの人権を尊重し共に喜び、また責任を分かち合いながら個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の実現に向けて、様々な取組を進めています。

近年では、少子・高齢化社会、仕事と家事・育児・介護の両立の困難さなど様々な社会問題が表面化しています。男女共同参画社会の実現は、こうした社会問題を解決する道筋となり、活力あるまちづくりにもつながります。

男女共同参画社会の実現に向け、大人はもとより、将来を担う子どもたちが男女共同参画について正しく理解をすることが不可欠です。

この啓発漫画「ジェンダーってなに？」は子どもたちにもわかりやすいように、身近な話題をテーマに作成していますので、多くの子どもたちとともに、保護者の皆様方にも読んでいただけたら幸いです。

平成25年3月

さあ、皆さんも一緒に男女共同参画社会を目指しませんか。

目　次

第１話	家事は誰の仕事？	2
第２話	ケンちゃんの赤いランドセル	6
第３話	パートの仕事	10
第４話	世の中ママだけ？	14
第５話	燃え尽き症候群	18
第６話	弁当を作る息子	22
第７話	介護はみんなで	26
第８話	夫婦ならと思う気持ちが	30
第９話	お母さんは打ち出の小槌	34
第10話	男性相談	38

第1話「家事は誰の仕事？」

友子また
こんなに部屋を
散らかして!!
廿の子なんだ
から、きちんと
整理して
掃除しなさい!!

お母さん
やっと大学の
試験が終
わった
ばかり
なんだ
から
掃除しないるひまなかったのよ……
そんな事よりも
私の部屋勝手に
入って来ないでよ！
ぶつぶつ
言ってないで
さっさと掃除
しなさい!!

ほんとにもー
廿の子の部屋
とは思えないわ！
はいはい
分かり
ました！

真吾!!
あなたの
部屋もずいぶん
ちらかってる
わね！
―

ここんとこ仕事で忙しかったからね…
いいから ちょっと掃除機をかける間 部屋から出てよ
いいよ！ いいよ!! 後で自分で掃除するから!!
母さんがやっとくわ！
お前は仕事で疲れているんだから休んでなさい
お母さん！
だったら私の部屋もついでに掃除しておいてよ！
まあ！廿の子が何言ってんのよ！ 自分の部屋ぐらい自分で掃除しなさい!!
いいよ 母さん
自分の部屋は自分でやるから

第一お母さんが掃除してくれるとどこへ何が行ったのかわかんなくなるからさ
まあそうなの？真吾は小さい頃からマメだから
友子と逆だとよかったのにね！
なんだか兄さんだけ優遇されてない？
ムッ

何をごちゃごちゃ言ってるの!!文句言ってる間に掃除しちゃいなさい！
えーなんか不公平
ぐいっ
友子いいから先に掃除機かけちゃえよ

おーい母さんお茶入れてくれよ
ハイハイこの忙しい時に今行きますよ

今日は家中の掃除やら庭の草むしりで忙しかったわ!!
お父さんもお茶ぐらいは自分で入れて下さいよ
ふー!

男子厨房に入らず
きっぱり
まっお父さん今どき何を古臭いことを言ってるの!!

ここがポイント

今回は、どこの家庭にもある身近な話題でした。しかし、身近であればあるほど、見えにくくなってしまうこともあります。お母さんは、自分が育てられた時のように、親の責任として恥ずかしくない女性に、友子さんを育てようとしていましたし、男性である真吾さんには、仕事を第一とする男性の姿を期待し、たとえ自分の部屋の掃除でも、させてもらえない様子でした。家の中の仕事は女性の役割と決めてしまうことがジェンダーなのです。女性であれ、男性であれ、一人の人間として生きていくためには最低限の生活的自立は不可欠です。子どもが本来持っている生きるための才能を、親の愛情という押し付けで、潰さないように気をつけたいものです。

家族一人ひとりが生活的に自立できることが大切です。

第2話「ケンちゃんの赤いランドセル」

いよいよ
ケンちゃんも
来年から
小学生ね！

机とか
ランドセル
もう
用意した？

うん　それがね～
今困ってるのよ

この間ケンがね
おばあちゃんと
ランドセル買いに
行ったんだけど…

帰って来て
ふたを開けたら
なんと赤いランドセル
だったの

僕これがいい！

まあ

赤いランドセル…

ほらケンは
赤い色が
好きでしょ？

服もいつも赤が
いいって言うし

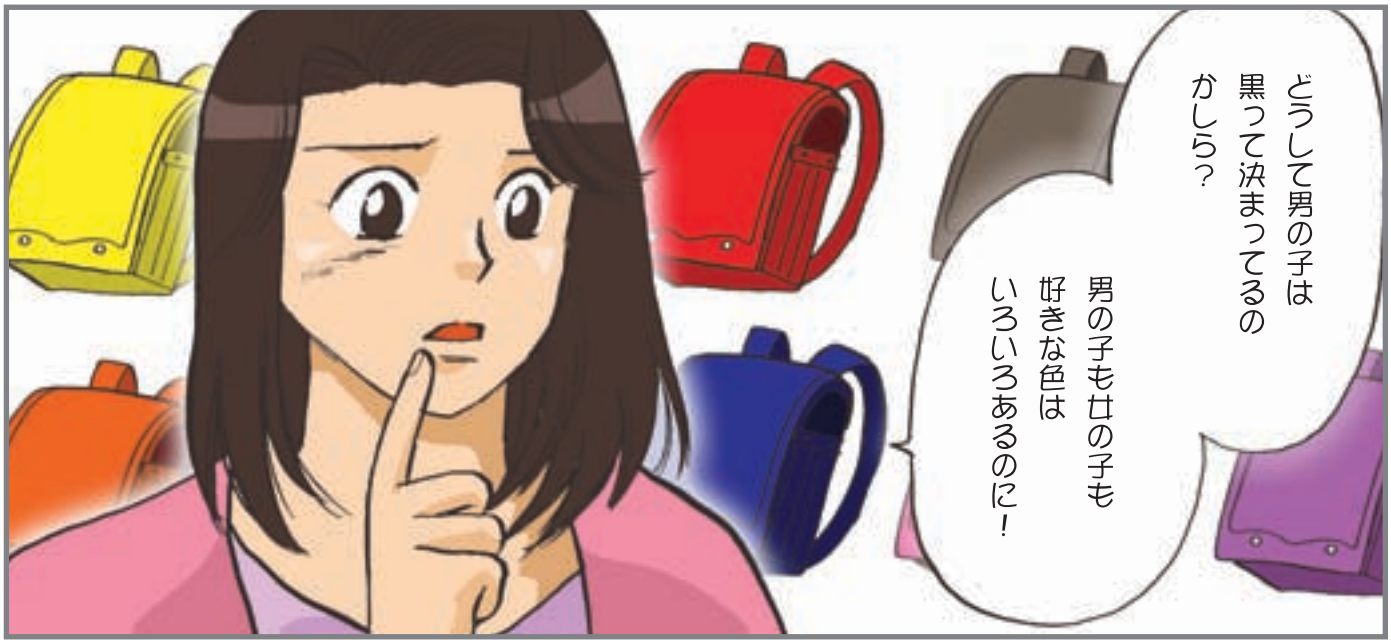
おばあちゃんが
男の子は黒が
いいんじゃない？って
言ってもきかなくて

それで赤いのを
買ったんだぁ！

そうなのよ
でもいくら
ケンがいいって
言ったってまわりの
子にいじめられや
しないか心配でね
！

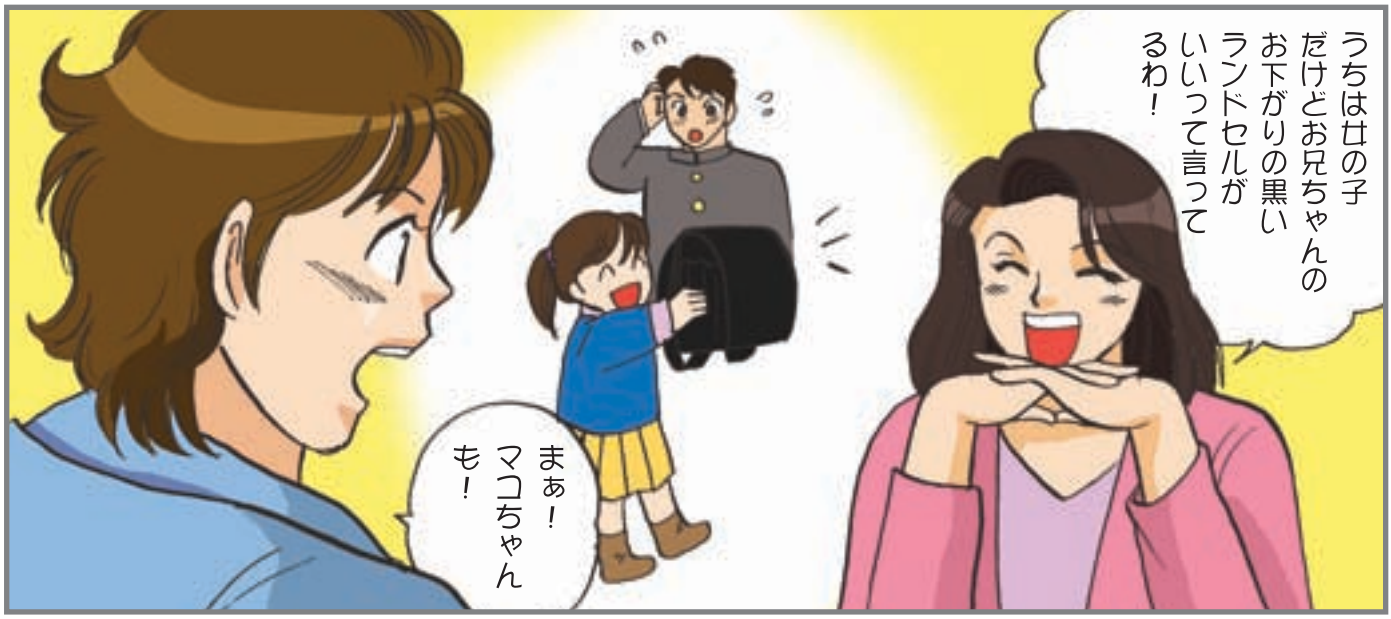
それで学校
にも問合わせて
みたんだけど
校則には指定は
ないんですって

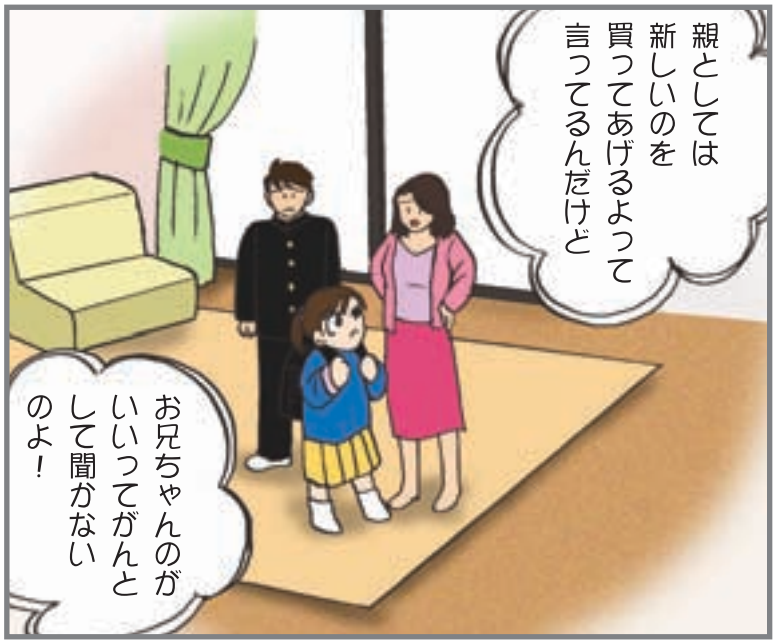
でもやっぱり
目立つから
なるべく黒の
方がいいんじゃ
ないかって言わ
れたわ
あら
変ね


どうして男の子は
黒って決まってるの
かしら？
男の子も女の子も
好きな色は
いろいろあるのに！

でも高いから
そんなに買い
替えれるもの
じゃないもの
ね！
本人がいいって
言うなら
それでいいん
じゃないの？

本人の意思を
尊重してあげ
なさいよ～
そうか
しらねエ～


うちは廿の子
だけどお兄ちゃんの
お下がりの黒い
ランドセルが
いいって言って
るわ！
まぁ！
マコちゃん
も！


親としては
新しいのを
買ってあげるよって
言ってるんだけど
お兄ちゃんのが
いいってがんと
して聞かない
のよ！

そう言えば幼稚園の
頃から青や黒が
好きだったものね
マコちゃん

ここがポイント

今回のランドセルに限らず、男の子は寒色系、女の子は暖色系というように生まれた瞬間から性別による分類が当然のようにされてきました。その視点で考えれば、子どもを取り巻く環境のすべてにジェンダーがあり、ジェンダーによる分類が生活の奥深くまで入り込んでいます。男の子向けのおもちゃや、女の子向けのおもちゃ、ボーイズファーストの出席簿など、その分類に確かな根拠はありません。子どもの持っている限りない可能性を、ジェンダーという枠によって制限したり、男女という二極分類に無理やりはめ込んでしまうことは、その子の個性を認めず、伸ばすチャンスをも失ってしまうことになります。ケンちゃんの買った赤いランドセルもお母さんや周りの人たちの温かい応援を受けて、元気に通学できる日を待っていることでしょうね。

ミニコラム① この言葉ってどんな意味？

【男女共同参画社会】

女性も男性もすべての人が互いに認め合い、責任を分かち合い、家庭にも仕事にも地域社会にも共に参画し、いきいきと暮らすことのできる社会です。豊田市がそんな町になるためにできること、すべきことを一人ひとりが考える、それがはじめの一歩です。

第3話「パートの仕事」

あら！恵子じゃない！
何見てるの？
あら洋子！

じゃあ子どもが学校から帰ってくるまでのパートを探すしかないわね
そ～なのよォ～それがなかなか無くてね～
あ!! これ見てこの仕事
スーパーの仕事
時給800円スーパーの食品の搬入だって！午前中3時間！
ちょうどいいかも！
そーいえば家のとなりの奥さん仕事中に腰を痛めて仕事やめて今病院通いをしているってよ
パートって何の保証もないからケガや病気になった時困るわよね
はぁ～
そうよね同じ仕事してても社員とはえらく待遇が違うのよね
給料は安いしボーナスないし
私の行ってるところなんか1／4はパートなのよ私なんか正社員とまったく同じ仕事してるのに
いくら一生懸命やっても仕事が評価されないし文句を言えばじゃあやめたらって事になっちゃうのよね

会社も安い労働力でいざというときは真っ先にリストラできるから今はパートが多いのよ

くうう〜〜そんなのひどいわ!!こっちだって家のローンとか生活かかってるのにィ〜

でも仕事する以上はやりがいがあって認められることを期待するけど〜…

がくっ

恵子さんは結婚する前はどうだったの？

仕事してたのかしら？

ええ

結婚して子どもができるまではバリバリ働いていたのよ！

気持ちがあったのに

子どもができてやめたけどね私自身は仕事を続けたかったんだけど…

退職したの？

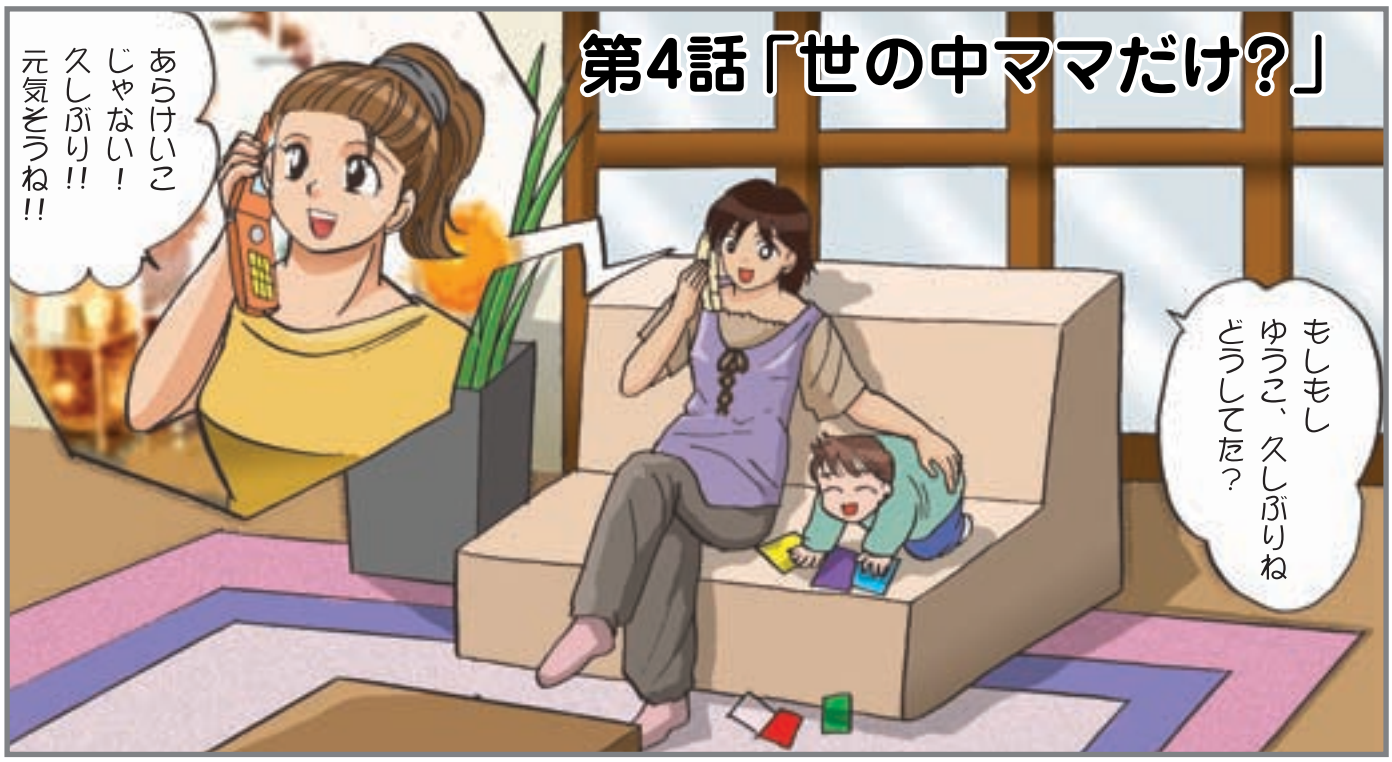
ここがポイント

女性の働き方は、3つのパターンに分けることができます。結婚し、子どもを持ちながら働き続ける『継続就業型』、出産・育児のために一旦退職して、子どもが大きくなったら再び働き始める『再就職型』、そして結婚や出産を機に家庭にはいって専業主婦の生活を選ぶ『出産退職型』です。どのような、ライフスタイルを選択するかは、本人の意思によるところですが、国民生活白書によると理想は、結婚し、子どもを持ちながら働きたい女性が多いにもかかわらず、現実は理想通りにはいかないのが現状です。
この背景には、育児環境が充分に整備されていないこと、また、従来の意識からくる夫婦関係、結婚観という、いわゆるジェンダーが起因していることも大きいといえます。

ミニコラム② この言葉ってどんな意味？

【ジェンダー】

「文化的・社会的に作られた性差」のことをいいます。「女は女らしく、男は男らしく」というあり方や「男は仕事、女は家庭」という性別による役割分業はこのジェンダーからくるものです。しかし、ジェンダーは普遍的なものではなく、その時々の時代や社会の影響を受けてつくられたものです。「ジェンダー」にとらわれない自由な意思や考え方を持って行動することが、男女共同参画の実現に不可欠です。


第4話「世の中ママだけ？」
もしもし ゆうこ、久しぶりね どうしてた？
あらけいこ じゃない！ 久しぶり!! 元気そうね!!

相変わらずよ
ねぇ今週の日曜日に 子どもつれて うちに来ない？

大丈夫 大丈夫！
久しぶりに 話したいしさ 1時にどお？
ほんと？ いくいく!! 日曜の 1時ね!!

え？ いいの!? 迷惑じゃ ない？

日曜日ー…
ピンポーン
こんにちは～ けいこ お邪魔する ねー

ああ いらっしゃい
あがって あがって
けい子「赤ちゃん ブック」買ってるんだぁー
そうなの！ うちの子も2歳になってそういうのが欲しくなったみたいなの
本屋でじーっと見て離さないから
あら！
でもさ～ 私、なんか気にいらないのよね
そういう本…
ん～そうなんだけど、例えばさ
この付録の指人形使って挨拶の練習するページね
写真がお母さんだけでしょ？
なんで？ かわいいじゃん!!
付録もいっぱい付いていて子どもも喜ぶし…
赤ちゃんブック
元気な赤ちゃん

それからこの投稿欄のタイトルも「ママの一言」
あんまり、ママ、ママって言われると世の中パパはいらないのかって気になるのよねー
そー言われればそうだけど、でもそれは読者の大半が母親だからじゃないの？
そうなんだけどでもこういうの見て「やっぱ子育ては母親の仕事だ」とか言う人が出てくるような気がするんだよね
ふーん
そう言えばゆうこ、この間「父親の子育て参加計画実施中」って言ってたわよね？
で、どうなったの!?
そうなのよ私がせっかく2人で子育てしようってがんばってるのに
目に付くものがこれじゃあやる気なくすでしょ？
子どもの健康管理はお母さんの仕事です。
だから困ってるの
どのページも母親とかママしか出てこないもんねエ～
なーるほど～確かにそうかも
でしょ？

ここがポイント

メディアの影響力は非常に大きいものです。情報は、それがあたかも正しいことのように私たちの目に飛び込んできます。それらの情報を自分自身で読み取り、正しいか正しくないか、また適当かどうかを判断し、自分の生活に役立てていくことが大切です。

世の中に氾濫する情報を適切に読み取ること、これを『メディアリテラシー』といいます。先ほどのゆうこさんのように情報を鵜呑みにするのではなく、『これって本当に正しいんだろうか？』とか『こういう風に言って欲しい』という疑問や意見を持つことが、情報に流されず自分らしく生きるためには必要になってきます。ゆうこさんのように子育てを夫婦二人で協力してやりたいと思っている人は増えてきていると思います。なのに相変わらずメディアが『子育て＝母親』という情報を流し続けていては、参加しようと思っている男性の意識さえ変えてしまうことになりかねません。メディアは社会の流れをつかんで情報を発信していくものです。私たちが声をあげていけば、きっと変わります。私たちのまわりにたくさんある情報を、一度見直してみてはいかがでしょうか？

第5話「燃え尽き症候群」
あ～んのぞみ先輩聞いて下さぁ～い!!
どおしたのなおみ！急に呼び出して

実は私
最近仕事に対して以前のように熱意が持てなくて…

この間も
ねエなおみ
10月に始まる事業のプロジェクトチームのメンバー見た？
ううんまだ

2年目の須藤君が入ってたのよ。私今度のチームには絶対なおみが入ると思ってたのに！

うちのチームも再編成するように課長から言われたんだけど…
名前があがっているのは男ばかりなの
須藤くんよりもなおみの方が実績も上なのに…
がーん

ああ～っ
やっぱり女じゃだめなのかな～
も～会社辞めようかなぁ～
そ、そんな事言わないでよなおみ～
がっくり。

でもその気持ち分かるなぁ～
くぅぅ
くやしい！
…

…てな事があったんです
なるほど

一生懸命仕事に打ち込んできたにもかかわらず
チャンスは男性だけに与えられていく…その矛盾にやりきれなさを感じているのね

ええ…一生懸命仕事をすることがむなしく感じて…
適当にやっていても給料はもらえるのだから…って考えてしまうんです

女性であるという理由だけで機会すら与えられないとしたら時代の流れに逆行しているわ！

女性であることがこんなにリスクになるなんて～就職するまでは思ってもみなかった
能力を磨いてがんばれば、やっていけると思っていたんです
…
がんばれば正当に評価されると思っていたからこそ、仕事に対する熱意も持てたという事ね
ねエ、そんなあなたのがんばりを認めてそういう訴えをきいてくれるところは会社の中にあるの？
そうですね…でも上司には言いにくいし…
どこに言ったらいいか…
直接上司には言いにくいものね
しかし今回のように明らかに男女を差別している場合はセクハラ相談に該当するわ！
セクハラ相談室を企業内に設けているところもあれば外部に委託している企業もあるのよ！
まずはこのような相談室へ相談をしてみるといいわ！
!!

ここがポイント

一生懸命働いても女性であることで評価の対象とされなかったり、男性の補助的な仕事やポジションしか与えられず能力を示す機会すら与えられない、そのような状況では、熱意を持てなくなるのも当り前ですね。しかし、従来からのジェンダー意識によって、女性が意見を言うことをよしとしてこなかった社会では、女性が声をあげていくのはとても難しいですね。そのような時は同じ悩みを持つ仲間を見つけ、労働組合にバックアップしてもらいながら会社に対して正式に声をあげていくことも有効な手段です。また、仕事と育児・介護が両立できるような制度を持ち、柔軟な対応をしている企業を「ファミリー・フレンドリー企業」として国が毎年表彰していますが、就職の際にこういった企業を選ぶということもポイントです。意欲も能力もある女性がどんどんいい環境の会社を選んでいくことが、企業にとってこの問題を考え直させるきっかけにもなるはずです。まずはあきらめずに声をあげていきましょう。それがこの社会を変えるカギとなるのです。

第6話「弁当を作る息子」

あなた！ちょっと聞いてよ!!今日朝早くからかずやがお弁当を作ってたのよ

へえー あいつ料理なんかできるのか？

「ははは」じゃないわよ!!
彼女に言われてせっせと
お弁当作っていくなんて
情けない!!

だいたい男の子に
お弁当を作れ
なんて言う
彼女もちょっと
どうかと思うわ!

なーんだ結局
彼女が気に入ら
ないんだ

ゆきえ
さーん

!

なーに
プリプリして
歩いてんの?

のぞみさん

なるほどねー
今朝そんな
事があった
のー…

それでゆきえさんは
何が一番納得が
いかなかったの?

ええ…男の子
でもこれからは
ご飯ぐらい炊け
なくちゃいけないと
思って教えたけど…

彼女に言われて「はいはい」と
お弁当を作っていく
息子をみると
なんとも
ふがいない
と言うか…
でも「数学を教えて
もらったお礼に」と
息子さんはちゃんと
理由を言ってたん
でしょ？
それでも
気になる？
理由は分かるけど
普通お弁当を作ってと
女の子の方が言うかしら？
あなたに
頼ることなく
自分でお弁当を
作ることにしたん
でしょ？
それは息子さんと
彼女の間での
やりとりの中で
息子さんが
きちんと考え
その判断は
尊重できない
かしら？
う～ん
そう言われれば
そうなんだけど…

ここがポイント

今までの社会は「男性は仕事、女性は家事・育児」というように性別によって役割を分けてきました。今子育てをしている親世代なら、多かれ少なかれ誰でもこのジェンダー感を持っています。しかし、社会は刻々と変化し、価値観も変化しています。それは親世代も十分わかっていて、だからこそ今回のように息子にはこれからのことを考え家事を教えてきたのです。それにもかかわらず、彼女のお弁当をつくる事には抵抗を感じてしまったということは、つまり、自分自身の中にある「ジェンダー」が新しいスタイルを受け入れることに抵抗を感じた、ということなのです。抵抗を感じることは当然です。しかし、肝心なことは、自分のときはこうだった、でも今の子どもの時代はこういう風なんだ、とその変化を認識し、新しい価値観があることを受け入れることなのです。次世代を育てる親の世代。ジェンダーによって男女ともに背負ってきた負担を次の世代へ引き継がないためにも、自分自身のなかにあるジェンダーに気づき、性別に縛られない価値観をもって、子育てをしてほしいと思います。

第7話「介護はみんなで」
もしもし
どういったご相談でしょうか？

はい入院していた夫の父が退院して
家で療養しているのですが…

ヘルパーさんに来てもらったり、公的サービスも利用しているけれど
やっぱり夫の母ひとりでは大変と夫の姉から手伝うよう連絡があったんです

それが…

姉貴が週に2回ほどおやじのところに行ってるらしいよ
あらぁ

それで
週一日でいいから手伝ってくれってさっき電話があったんだ

まあ、そうだったの
専業主婦とはいえ
あなたのお姉さんも
子どもたちを置いて
大変ね
うん
それで

お前、都合を
つけて行って来て
くれよな！

え
私が!?

ちょっ
ちょっと
まってよ！
俺はとても仕事の
都合がつかないし
第一介護
なんだから
やっぱりお前の
ほうが役に
立つだろう？

私だってそんなに
簡単に仕事の
都合はつかない
わよー
あなたが
「うん。分かった
手伝うよ」って
返事をしたなら
自分で何とかするん
だと思ったのに!!

そんな
俺が行ける訳ないだろ?!
冷たい事言わずに頼むよ!
…
なるほど
夫の父親の介護は当然女性であるあなたの役目と
相談もせずに決めてしまう夫の態度に納得がいかないようですね
はい
でも冷たいと言われるのもいやですし
分かってはいるのですが…
やはり嫁としては手伝うべきだと
しゅん…
それでも相談ぐらいして欲しいそう思われるお気持ちは分かります
ところで今回の介護の手伝いですが実際に何が不足しているのでしょうか?
えっ
はぁ…
それは聞いてないのでよく分かりませんが…
…
肝心なところはそこじゃないでしょうか?

ここがポイント

従来、夫の親の介護は嫁の務め、いわば女性の役目でした。しかし、近年介護負担の大変さが社会で認められ、介護保険が導入されるなど、介護者の負担を軽減する取組みもされ始めました。しかし、もう少し詳しく聞いてみると、その介護者というのはやはり、妻、嫁、娘というように女性ばかりで奮闘しているというケースがまだまだ多いようです。ここにも、「介護＝女性」というジェンダー意識の名残が見え隠れしていますね。しかし、少子高齢時代では、介護は従来のようにはいかなくなっています。今回の相談者のように夫婦ともに仕事を持っていても、介護となると夫は妻の出番、妻に任せようとなってしまいがち、妻も自分がやらねば、と思いがちですが、まずは皆で何が必要かを確認しあうことが必要です。お互いに自分に何ができるか、どういうやり方をしていくかと、しっかり話し合えば、介護者だけでなく介護される方にとっても負担のかからないものになっていくはずです。女性も男性も、立場や役割にこだわらず、家族一人ひとりができることをする、これが一番大切なのです。

女性のための電話相談室「クローバーコール」　TEL 0565-33-9680
毎週　火・木・金・土　午前10時～午後４時　水　午前10時～午後1時と午後４時～７時（年末年始、祝日休み）

第8話「夫婦ならと思う気持ちが」

だめですよ！私だっていろいろ忙しいんですから！

忙しいとはなんだ!! 人がせっかく誘ってるのに

そんな事で怒らないで下さいよ！

それにうちはもう年金暮らしなんですからそんな贅沢できませんよ！

この先長いんですからあなたもちょっとは考えて下さいよ！

仕事するとか

お、おい

僕はこの間まで何十年も働いてたんだぞ!!

だから趣味でも見つけるとか、少しは家のことするとかして下さいよ

私も四六時中付き合ってるわけにはいかないんですから

なんだ!! 人を邪魔者みたいに!!

給料運んでなりとこうもちがうのか!!

誰のために今まで苦労してきたんだか!!

…とこんな風なんです
まったく女性は不平等不平等といいますが
男なんて仕事してないと人並みに扱ってもらえないんですから
ひどいもんです!
ふーむ
定年後の生活は思っていたようなものではないようですな?…
まったくです!働いていた頃は妻もきちんとしてくれましたが
定年になったとたんにこのありさまです!
ちっとも家にいないし今まで働いたお返しがこれだとは思ってもみませんでしたよ!
実は定年をむかえた夫婦の気持ちのすれちがいはよくある事みたいですよ
夫が定年までの何十年間、夫不在で生活するリズムを妻は作っています
定年したとたん一緒にと言われても戸惑うというのが本音のようです
い…いやあ
それを言われると…
私も仕事人間でしたから、夜は遅かったし休日がないこともままありました
もじ
もじ
今まで家の事は妻まかせでしたから

ここがポイント

「夫婦」と聞いて「ツーカーの仲」とか「あ・うんの呼吸」、「以心伝心」といった言葉を思い浮かべる方も多いと思います。夫婦であれば言葉はなくても、相手に気持ちが伝わるという意味ですが果たしてそうなのでしょうか。従来の社会は、男性、女性という性別によって仕事、家事といったように役割が決められていました。結婚すれば男性は仕事に打ち込み、女性は家事育児を担うということが、お互いの気持ちを確認しなくても『そういうもの、それが当たり前』という価値観によって共通のものとして続けられたのです。夫の役割、妻の役割を務めていれば、他の部分はどう考えていようと、お互いそれを知らなくても生活できたのです。それが、定年という状況の変化によって、ガラリと変わります。それまではお互いの気持ちを確認してこなかった場合、そこで初めてお互いの生活の違いを目の当たりにすることになります。何十年という間に積み重ねられたすれ違いを埋めるのは容易ではありません。平均寿命から考えれば、定年後20年は生きることになります。有意義に過ごすためにも、普段から相手の気持ちを知っておくことは大切なのです。

第9話「お母さんは打ち出の小槌」

あーっ もうすぐ夏休みねー

杉本さんのところはもう家族旅行の計画たてたの？

はぁ～

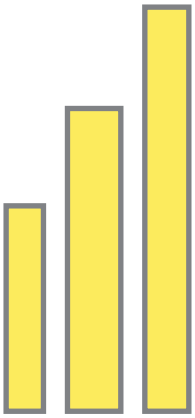
家族旅行の計画ねぇ～

あらなんだか憂うつそう…

私何か悪い事言った？

ううんそういう訳じゃないけど

実は去年ね…



ふーっ

ああ～っつかれた!!

海はけっこう混んでたなぁ～

せっ

せっ

おい冷たいお茶！

すぐに出してくれよ！

それと今日の晩飯
なんかさっぱりしたものがいいなぁ

おお！サンキュ!!
はいお茶

も～みんな家についてから座りっぱなしじゃなーい
少しは荷物片づけてよ！
何でもお母さんまかせなんだから

そうがみがみ言うなよ子どもだって疲れてるんだから
でも～

ねエ今日は外食にしない？これから作ると時間かかるし～…
何言ってんだ!!旅行でぜいたくしたんだぞ!!
これから出かける気になれないよ！

何か軽く作ればいいじゃないか軽くでいいよ!!

ええー

私だって

疲れているのにィ〜

とまあ、旅行に行っても私だけ相変わらず家族の世話

ちっともゆっくりできないのよ

話をきくだけで憂うつなパターンね!

そうよ!帰れば帰ったで荷物を元に戻して洗濯してご飯

いつもより疲れるの、いっその事私を置いて子どもと行ってくれれば休めるのにって正直思うわ!

そうよね。家族旅行は楽しみたい。でも準備から片づけまで一人で抱えるのは大変だもんね!

疲れもあいまってイヤになる気持ちも分かるわ

でしょー!?

ここがポイント

従来から女性ならば、母親として妻として、たとえ家族旅行であっても自らが楽しむよりは家族が楽しむことを第一に考えるべきというイメージがあります。縁の下から支える女性の姿は見えにくいものです。家族にとって妻や母親はいつのまにか『言えばなんでもしてくれる』というような存在になっているのです。でも、妻であろうと、母親であろうと一人の人間です。家族と同じように自分も楽しみたいと思うのも当然なら、「私だって休みたい！！」と思うのも自然なことではないでしょうか。しかし、家族の幸せを優先するように教えられた女性には、疲れを素直に口にすることすら難しいのですが、そのままでは家族も気づいてはくれません。家族を大切にしたいからこそ、一緒に楽しみたい。家族みんなにその気持ちがあれば、案ずるより産むが易し、案外口に出して言ってみれば、みんなで協力できるのではないでしょうか。

第10話「男性相談」

はい「メンズコール☆とよた」です

今日はどういったご相談でしょうか？

実は妻と最近ギクシャクしてしまって…

ただいまー

おかえり

今日も遅かったわね

なんかこのごろずーと、夜中まで仕事なのね

会社で何かあったの？

いや、今日は残業の後課長と飲みに行ってたから遅くなったんだ

そうなの

でも最近仕事も忙しそうだし家に帰ってからも元気がないみたい

ちょっと忙しいから疲れているだけだ
もう風呂入って寝るよ！
ちょっとお～最近ゆっくり話もしてないし今日は話をきかせてくれてもいいんじゃない？
やっぱり会社で何かあったんでしょ？
も～やめてくれよ！
イライラ
言っただろ疲れてるだけだって
心配いらないよ！
そう、私じゃ仕事の話をしても無駄だってこと？
いつもそうよね一人でカリカリして聞いても話してくれないし…
お前に言ったってしょうがない話だからだよ！
しゅん…
もういいわ！
…

とまあ
こんな具合で妻とうまくいってなくて…
なるほど…奥さんとギクシャクしてしまうという事でしたが
今回のお話を聞いているとあなた一人でイライラしているように感じますが？
そうなんです仕事のストレスでしょうか…
私の勤めているところはノルマが厳しくて、営業成績はもちろん
同僚の中で誰が一番早く出世するかっていうような競争もあって気が抜けないんです
おまけに今度仕事で大抜擢されて部長命令でプロジェクトチームのリーダーになったのですが
出世の大きなチャンスだと思う一方で今の仕事量を考えるとてもやれそうになく気が重いのです
そうでしたか、あなたが家でイライラしてしまうのは仕事上のストレスの影響が大きそうですね
この事を奥さんとお話されたことはないのですね？
はい
やはり妻に仕事の話をするのは少し抵抗があるので…
それはなぜですか？

ここがポイント

男女共同参画やジェンダーというと女性ばかりが注目されがちですが、男性にとっても大きな問題です。つくられた男性像のために、涙を見せることも弱音を吐くこともできず、責任を一身に背負い生きている、これはとても辛いことですよね。そんな生きづらさを誰かに話すことで、解決策を発見できることがあるかもしれません。そうでなくても、ずいぶん気が楽になるのではないでしょうか。すべてを自分だけで背負うのではなく、疲れたときは疲れたと、助けてほしいときは助けてと誰かを頼ってもいいのではないでしょうか。もし、周りの誰かに話をするのは抵抗があるということであれば、キラッ☆とよたが開設している男性のための電話相談室「メンズコール☆とよた」に電話するのもいいですね。自分の弱いところを見せるのは勇気のいることかもしれません。自分の感情や精神状態とじっくり向き合ってみることも大切です。男性のみなさんも、たまには肩の力を抜いて、自分の気持ちを誰かに話してみませんか。

男性のための電話相談室「メンズコール☆とよた」

TEL 0565-37-0034　毎月第2、4金曜日　午後6時～8時（年末年始、祝日休み）

キラッ☆とよた（とよた男女共同参画センター）

キラッ☆とよたでは、各種講座・セミナーなどの開催、情報誌「クローバー」の発行、男女共同参画川柳の募集などを通じて、男女共同参画の理解を深め、活力ある社会づくりを進めています。

〒471－0034　豊田市小坂本町1－25
（豊田産業文化センター2階）
TEL 0565－31－7780
FAX 0565－31－3270

ジェンダーってなに？3
男女共同参画社会をめざして

平成25年3月　第2刷

漫　画　／篠沢こずみ（ケリーズファーム）
発行・編集　／キラッ☆とよた（とよた男女共同参画センター）

※無断転載・転用を禁止します。